

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	ながおか医療生活協同組合	代表者	羽賀 正人	法人・事業所の特徴	市内で診療所、こどもクリニック、歯科クリニック等の医療サービスや様々な介護保険事業を運営している法人が2010年4月に開設。地域交流スペース「わいが家」を併設し、地域住民との交流の場になっている。診療所、居宅介護支援事業所をはじめとした複数の同法人事業所が近隣にあり連携に努めている。ご利用者ひとりひとりの笑顔を引き出す事を目指し柔軟性ある個別ケアに取り組んでおり近年は近隣の保育所や小学校の子供たちと触れ合う機会も増えている。
事業所名	プラット新町	管理者	皆川 諭		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	2人	1人	1人	1人	2人	3人	0人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ●出来ることに着目した報告様式を作成し過介助の防止に努める。 ●リハビリ職員との情報交換ノートを作成する。またリハビリ支援を週2日に増やせないか協力機関に依頼し、リハビリ内容をケアプランに反映させる。 ●医療との連携の強化(利用者情報の共有や相談の機会を概ね2~3ヶ月に1度設ける) ●職員のスキルアップの為に各種研修への参加を促す。また、事業所内勉強会も概ね2ヶ月に1回実施していく。 ●新規利用者の受け入れを担当する職員をある程度固定し、事前訪問や契約に可能な限り同行する。情報収集と本人・ご家族との初期からの関係構築に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●出来る事に着目した報告様式は作成できていない。必要性について職員間で検討する予定。 ●リハビリ支援回数の増加は依頼し検討して頂いている。情報交換ノートは作成出来ていないが以前よりリハビリ職員との連携の回数は増え、介護計画書にリハビリを組み込んでいる。 ●利用者の入れ替えがほぼ無かったこともあり、情報共有や相談の機会は定期的には設けなかったが必要時は相談等を行った。 ●事業所内勉強会は行えたが外部研修には限られた職員しか行けなかった。 ●新規利用者受け入れ担当を固定し、スムーズな受け入れが出来たが関係構築には更なる工夫が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●担当職員の自己紹介シートは利用者にとって良いと思う。担当職員だけではなく職員全員の自己紹介シートを作ると良いのでは？ ●外部研修にも積極的に参加しており、意識が高い。 ●昨年に比べ地域との関わりに力を入れている事が良く分かった。 ●しっかり取りまとめているので今年度出来た事の継続と出来なかった事を次年度の課題として取り組む事が重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「出来る事」に着目した報告様式について職員間で検討し必要であれば作成していく。 ●リハビリ支援回数の増加依頼を継続し、増加が確定した段階で情報交換方法について検討していく。 ●定期的な情報共有の場の設定は難しい為、毎月の部署会議にて職員に配布される利用者情報を連携機関にも配布する。 ●柔軟な支援に必要な介護技術や経験を得る為に各種研修会に参加していく。また、事業所内でも短時間の勉強会を行っていく。 ●新規利用者受け入れ担当を2名程度に固定し、事前訪問や契約に可能な限り同行する。また、全職員の自己紹介シートを作成、利用者本人やご家族との初期からの関係作りを生かす。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ●プラット玄関、わいが家、診療所などの近隣施設にパンフレットを常時置かせていただく。また、飛び入りで来所された方に施設案内や説明が全職員が出来るよう「施設紹介マニュアル」を作成する。 ●制度改正に向けて「小規模多機 	<ul style="list-style-type: none"> ●近隣施設にパンフレットをこまめに配布し、見学者に対し全職員が説明できるよう「施設紹介マニュアル」を作成した。 ●新年度を迎える前(3月)に「小規模多機能」についての勉強会を開き小規模多機能の役割や可能性につ 	<ul style="list-style-type: none"> ●環境の整備は出来ていた(除雪、プランターの量が増えた、施設周囲が綺麗) ●壁飾りなどがすぐに目に入り綺麗にしていると感じる ●アットホームな雰囲気が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●昨年度作成した「施設紹介マニュアル」と「小規模多機能勉強会」で得た知識を活用して全職員が簡単な施設紹介が出来るよう勉強会を実施する。 ●わいが家にてプラット内に飾っている月毎に貼り返る壁面飾りを

	<p>能」という施設を職員がより知る為の勉強会を行う。(3月を予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●玄関周辺環境整備の強化(玄関前に看板の設置、玄関前のプランター等) 	<p>いて職員が理解を深めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看板の設置は今年度は出来なかったが、3段の花台を購入し花の種類や量を増やし玄関前の整備を強化した。玄関内も柵を増やしカーテンを設置し環境整備に努めた。 		<p>半年に1回掲示する。また、作品数の多い利用者については個人の作品展を実施していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●玄関前の環境整備の強化を行う(看板の設置、玄関前のプランター)
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ●ボランティアを招いた行事を行う事で、近隣施設や地域の方々に足を運んで頂く機会を作り「わいが家」のスペースを有効活用する。(6月と11月の年2回を予定) ●引き続き回覧板を回して頂き、可能であれば、事業所が相談窓口でもある事を知っていただく内容の文章を回覧させていただく。また、上記の行事の案内も回覧させていただく 	<ul style="list-style-type: none"> ●ボランティアを2団体招いた行事を6月に予定通り行えたが2回目は行えていない。8月にわいが家にて縁日を開催し、小学生の来客があった。 ●回覧板は常に回して頂けたが町内会との関係性は薄く、文書等は回す事が出来なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●挨拶運動や日々の取り組みの中で地域へと出て行く姿勢が見られた。工夫していた。 ●回覧板はさらっと流してしまうのでPRとしては弱い。ただ回覧板の案内を見る方もいるので地道な取り組みとしては有りだと思う ●様々な教育施設との交流があったが最寄りの中学校とも是非お願いしたい。文化祭などの行事への参加も構わない。 ●小学校の音楽会、中学校の講演会もあるのでぜひ参加してほしい。 ●保育園職員も「プラット新町」を認知してきている。 ●相談窓口としての機能は果たせていないのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ●老健あらまちと合同で縁日行事を行い、ボランティアや地域の方にも声を掛け参加を促す。(8月) また、行事ポスターのコミセンへの掲示や回覧板に回して頂く事で地域の方にも行事のPRに協力をしていただく。 ●保育園と合同で行事や催し等を行う。 ●昨年度と同様に教育施設との交流を活発に行う。最寄りの中学校との交流の機会を作っていく。 ●定期的にプラット新町の「活動報告」を回覧板に回し、その中に介護相談の窓口である事も載せる。同時にコミセンへの掲示依頼をする。 ●訪問時等に本人、ご家族に対し地域で困っている方等の情報を確認し、必要時は包括支援センターとの連携を図る。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ●民児協定例会議に引き続き参加させていただき民生委員との関係構築、情報交換に努める。 ●「興味・関心チェックシート」を全利用者に実施し、会話の中から「以前の暮らし」や「本人の思い」をより多く汲み取り、支援に生かしていく。 ●職員が民生委員の役割、本人を取り巻く地域資源について知る機会を設ける。(勉強会の開催) 	<ul style="list-style-type: none"> ●民児協定例会議には出来る限り参加し質問や相談も頂き、相談窓口として機能し始めている。 ●「興味・関心チェックシート」は数名にしか実施できなかった為、「以前の暮らし」等について多くは引き出せなかった。 ●職員が民生委員や地域資源について知る為の勉強会はまだ行えていない。(1月～3月を予定) 	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議内では話し合いが行われているが地域全体となるとよく分からない。 ●職員が地域の心配な人に関わるのは難しい。包括や民生委員の仕事ではないかと思う。 ●事業所利用者の支援が優先で近所の心配事は中々挙がってこない現状がある。 ●訪問などに行った時に知り合いにこういう人がいるんだけど…等の話が挙がると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「興味・関心チェックシート」を全利用者に順に行い、会話の中で以前の暮らし方を10個以上拾い上げ、表にまとめ職員間で共有する。 ●民児協定例会議に引き続き参加し民生委員との協力関係を築いていく。利用者だけでなく地域の心配な方の情報交換も必要時していく。

<p>E. 運営推進会議を活かした取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議に主任、ケアマネ以外の職員も参加し、現場職員から地域の方や他事業所の方に聞いてみたいことなどがあれば確認していく。また、会議内にて頂いた意見を運営に生かす。 ●運営推進委員に地域の方に入っただき、会議を地域の情報交換の場とする。(近隣保育園の職員さんや隣の町内の町内会長さん等) 	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議に現場職員の参加が数回あったが、あくまでも「参加」に留まっており地域の方や他事業所に聞いてみたい事を確認する事は無かった。 ●近隣の保育園職員さんに新たに委員となっていただいたが町内会等の参加は得られていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●保育園の職員さんが会議に参加され交流に繋がっていたり、高校生の受け入れ等、地域へ出向くことに積極的に取り組んでいる。 ●地域での実情が挙がって来づらいので教えて下さる方の参加があると良い。 ●職員数が少なくまとまりがあり、話し合いがしっかり出来ているイメージがある。 ●運営推進会議にもっと事業所職員に参加してもらいたいがどの事業所も出来ていない。外部評価についても知ってもらえると良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進委員に地域の実情に詳しい方に入って頂き会議内で地域における課題等について情報交換をする。(居宅介支援事業所ケアマネージャー、近隣町内の町内会長様等) ●プラット新町運営推進会議に役職者以外の職員も参加していき、現場での困りごと、地域の方や他法人の方に聞いてみたい事を聞ける機会を確保する。 ●他法人の運営推進会議に管理者以外の役職者も参加していき、新たな知識・経験を得る。得たものを自施設の運営や外部評価に活かしていく。
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●災害訓練の開催案内の文書を回覧するエリアを広げる。 ●泉1丁目と西藏王1・2丁目の防災訓練へ参加し協力関係を築いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業所において年間2回の災害訓練を行ったが、今年度は災害訓練の文書を回覧出来ず、近隣の災害訓練への参加も出来なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災計画の内容を知っているかどうかの線引きは事業所の捉え方による。事業所の防災への取り組みが分かれば良いのではないか。 ●防災計画を事業所職員が知って活用出来ているのが重要。 ●実際の災害時に事業所がどのような役割になるのかイメージがつかない。 ●学校との関係性が出来てきたので今後はそこを防災に繋げていければ良い。(障害を持っている子へのサポート等が可能な旨を事前に伝えておくなど) ●防災については民生委員や近隣の学校を交えるとプラスになるかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●わいが家で行っている総合事業参加者と合同で防災訓練を行う。(最低年1回) ●防災訓練を行う際は事前に町内会長の元に案内文書を持参し近隣地域に回覧していただく。 ●防災についての事業所内勉強会を実施する。(防災計画の再周知・徹底を目的としたもの) ●民生委員や近隣の教育施設に対し、災害時には障害を持つ方へのサポートや一時的な受け入れが可能という旨の文書を出し、災害時の役割を知って頂く。